

「人口・活動・資源・環境 (PARE) の 負の連環を転換させるフロンティア 人材育成プログラム」

北海道大学

工学研究院 五十嵐敏文



本日の報告事項

- プログラムの概要
- 危機管理に関する取組



プログラムの概要：大学の国際化戦略との関係1

世界のサステナビリティの課題解決

平成17年～

「持続可能な開発」国際戦略



Asiaミッション

人口・活動・資源・環境の負の連環を

PARE

正に転換する

方策

ASEANと日本の **+** 異分野・異文化の
若者を一緒に育成

Frontiers

プログラムの概要：大学の国際化戦略との関係2

教育の国際連携を拡充すべく

平成20年～ 大学教育の国際化加速プログラム

平成23年～ グローバル人材育成タスクフォース

第2期ミッション

ASEAN 大学との
教育連携の拡大

Field - Lab の協力関係
構築
ASEAN 日本

方策

質の保証における
大学院間のシステムの
違いを解消

本学5大学院 **+** ASEAN6大学
単位認定・成績換算
の共通システムづくり

学問分野の違いを超えた

国際共同教育システム

プログラムの概要: 目的

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム
Graduate Program for Fostering Frontiers of Practical Solutions in

a **P**opulations

- **A**ctivities

- **R**esources

- **E**nvironments
Chain



プログラムの概要：育成する人材像

4つの力

フィールド
研究力

多様性
容認力

開拓力

課題
解決力

国際性
の涵養

全人
教育

フロンティア
精神

実学の
精神

異分野専門家 ネットワークの形成

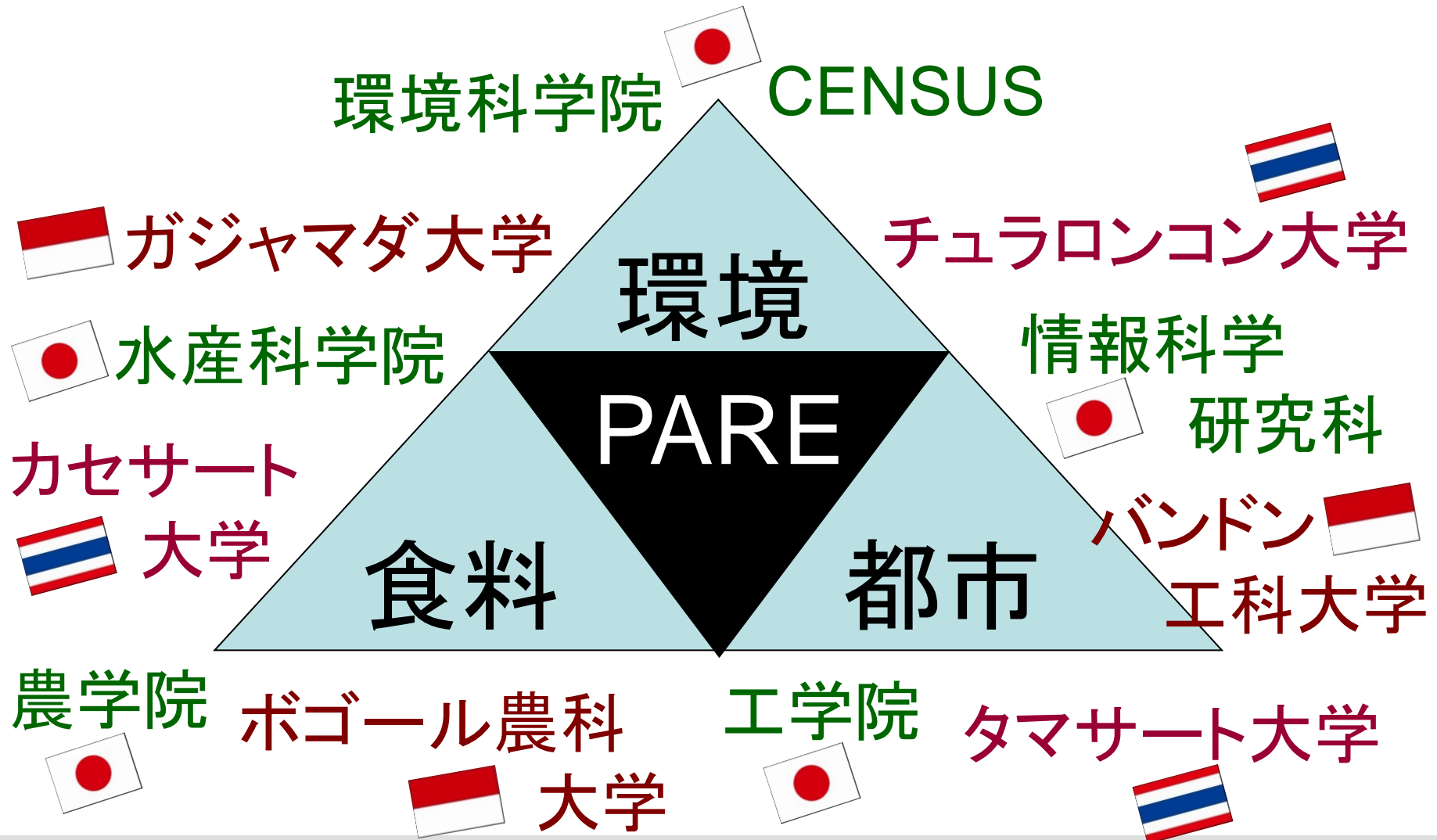
食料・栄養問題の
改善と向上に
資する人材

化石資源使用の
適正化に
資する人材

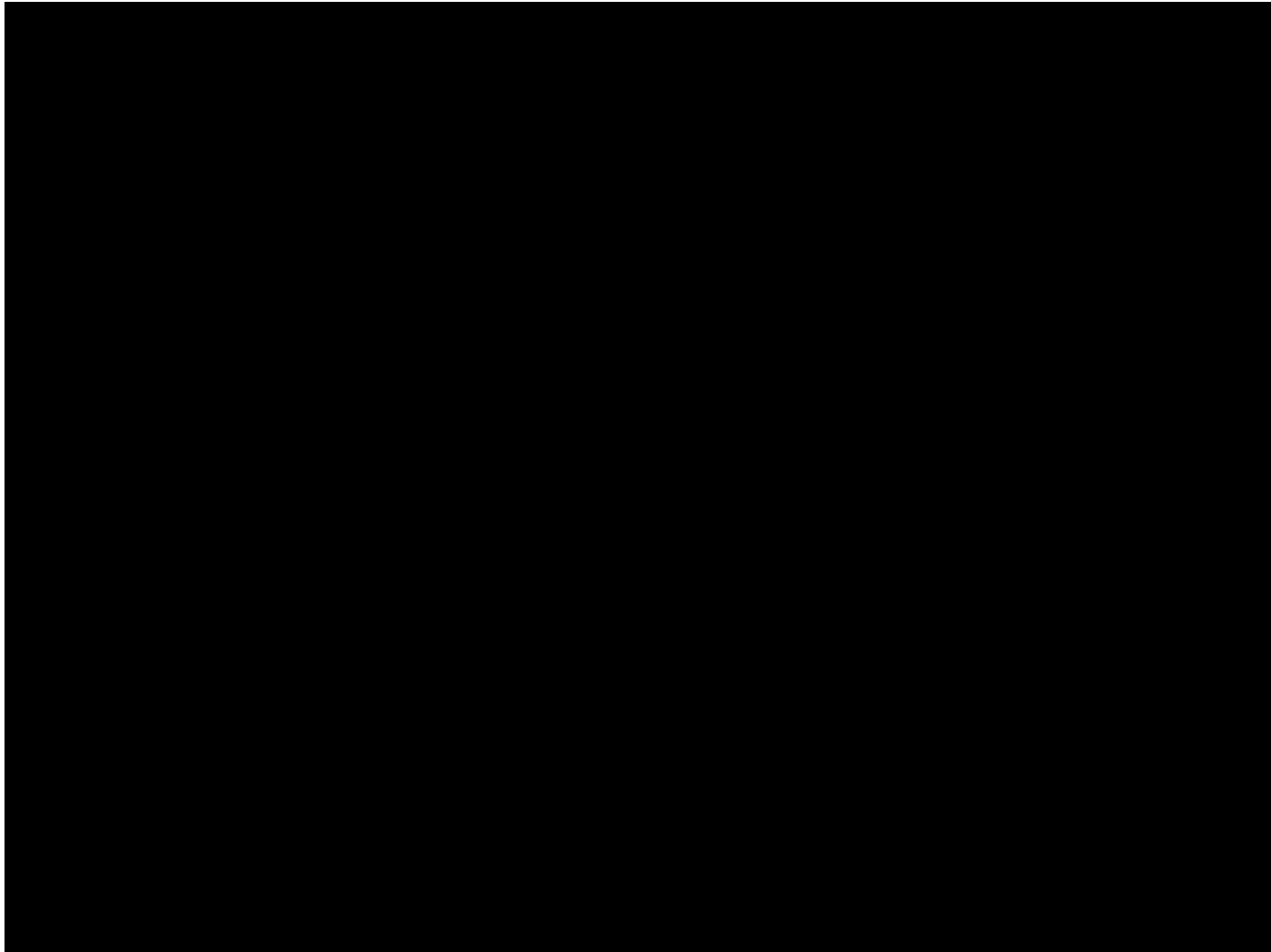


都市と農村の
適正化に
資する人材

環境問題の
監視と改善に
資する人材

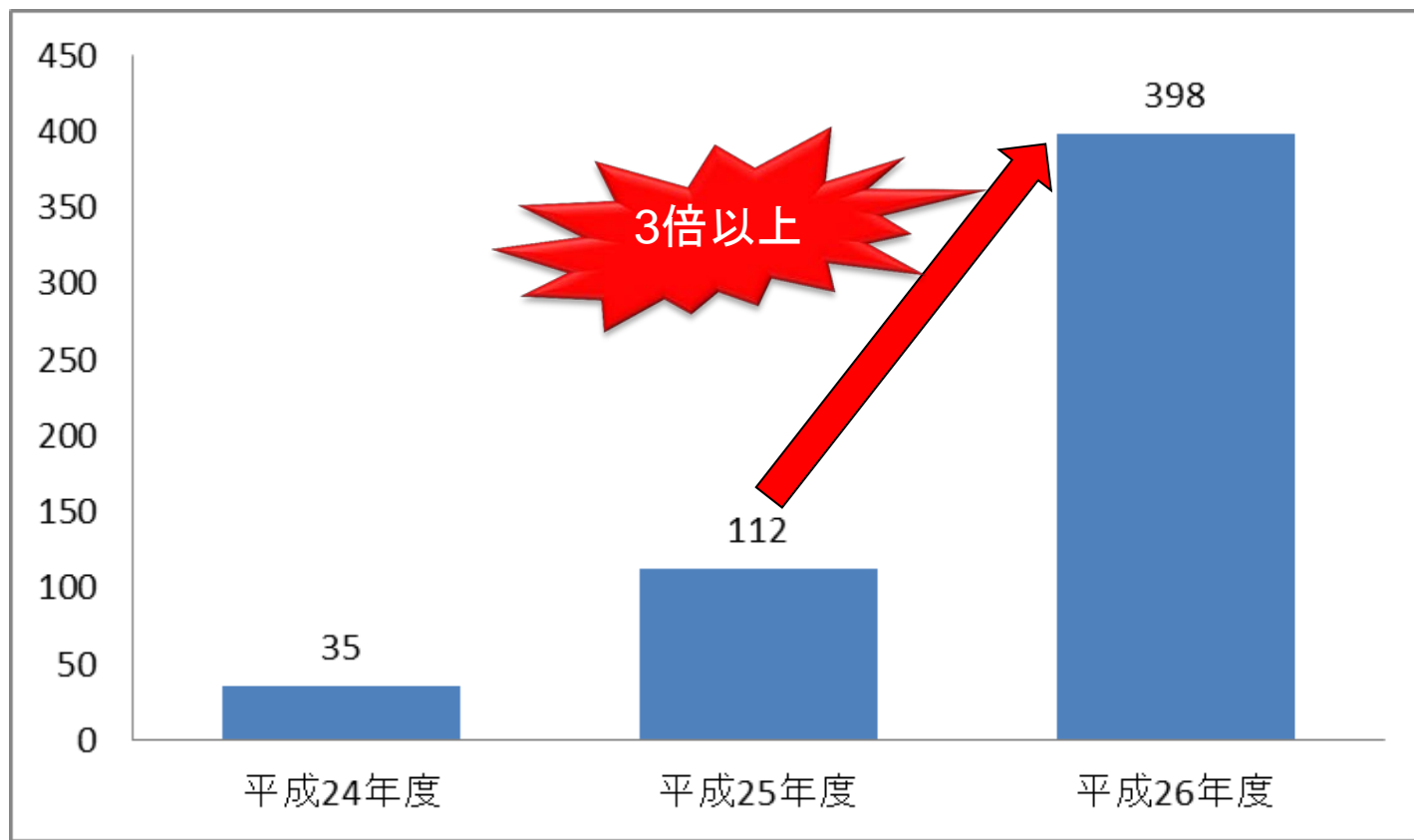


プログラムの概要：プログラムのカリキュラム (学生用広報ビデオの紹介)



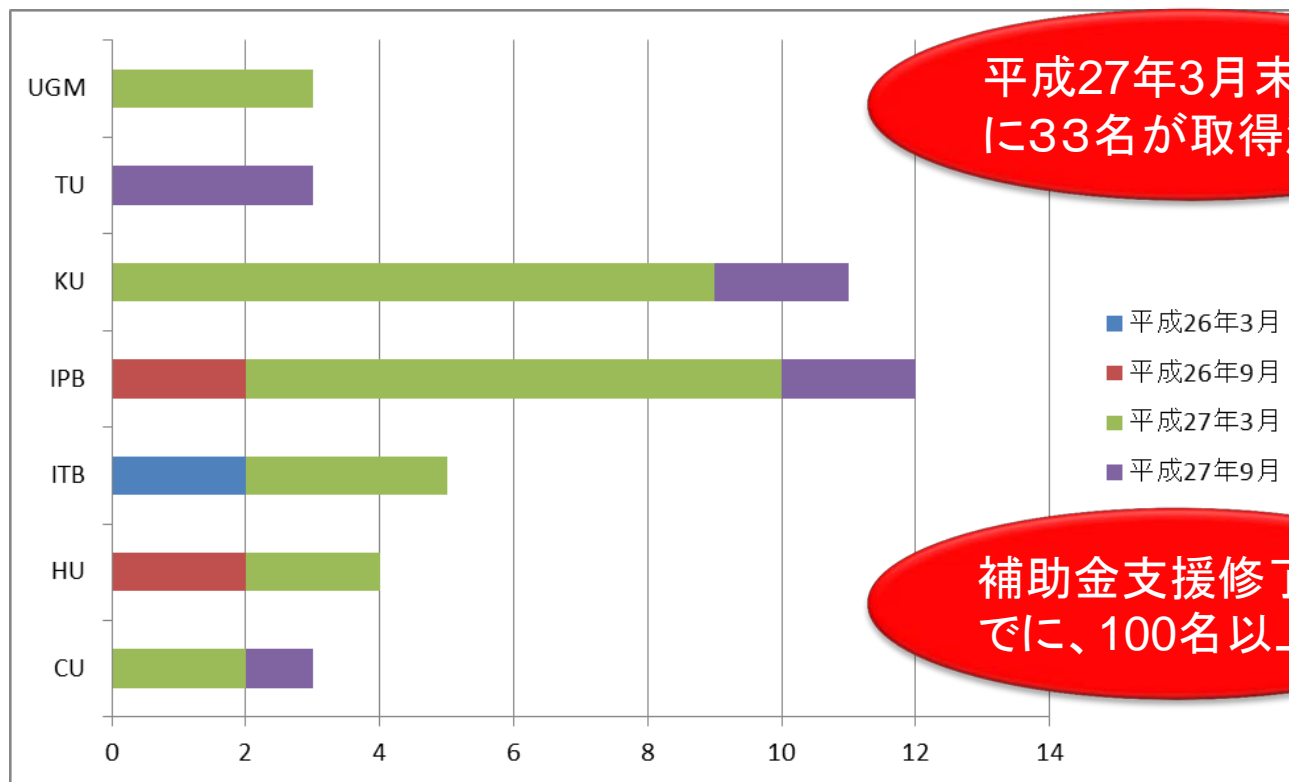
プログラムの概要：実績①

プログラムによる交流学生数(累計)
=科目受講者数



プログラムの概要:これまでの実績②

共同修了証取得者数



共同修了証取得に必要な取得単位数

=「基礎科目」(2-3単位) + 「ショートプログラム」(3単位) + 「発展科目」「専門科目」(2単位以上) = 計7単位以上

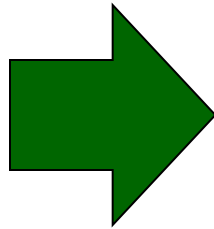


プログラムの概要： Eラーニング＋アクティブラーニング

PARE基礎論 (I)(II)(III)(各1単位)



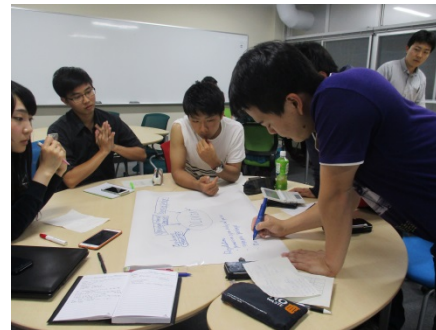
自宅での電子教材
の事前視聴
(eラーニング)



教室でのミニ講義



遠隔地の学生との
ディスカッション



教室でのアクティブ
ラーニング



英語でのプレゼン
テーション

新しい教授法の導入： Eラーニング＋アクティブラーニング



平成26年度
共同講義

平成27年度
共同講義

The 1st Joint Lectures on Ecosystem Services and Water Resources Management

All lectures are free to attend!

Monday, 2nd March 2015, 9:00-16:15 & Thursday, 26th 2015
Room D101, Faculty of Environmental Earth Science

2 March 2015 | 9:15-10:30

Global warming, shifts in species distributions and biodiversity

by Dr. Jorge Garcia Molinos
Scottish Association for Marine Science

2 March 2015 | 10:45-12:00

What Happens to Societies when the Water Goes Away?

by Prof. Dr. Franklin Schwartz
School of Earth Science
Ohio State University

2 March 2015 | 15:00-16:15

Ecosystem service and water resource management in Indonesia

by Prof. Dr. Hidayat Pawitan
Faculty of Mathematics and National Sciences
Bogor Agriculture University

26 March 2015 | 10:30-12:00

Building Food Security in Developing Countries

by Dr. Henry Osbahr
School of Agriculture
Reading University

All lectures will be provided in English.
This program is funded by the Top Global University Project (MEXT)
Venue : Room D101, Faculty of Environmental Earth Science
All lectures are free to attend



University of Reading - Hokkaido University
(レディング大学 - 北海道大学)

Joint Lecture on
Food Security and Poverty Reduction
共同講義 - 食料安全保障と貧困削減

July 7th 2015 | 14:45-17:15
@Main Conference Room & Active Learning
Room 219, Office of International Affair
Hakodate Campus: Lecture Room 3, Lecture BLD

2015年7月7日 (火) | 14:45 - 17:15
@国際本部 2F大会議室&アクティブ・ラーニング教室219
商館キャンパス 講義棟 第3講義室

Free to attend! 参加無料!
All lectures will be provided in English.

You need to be registered to attend the lecture in advance.
Please contact us via email: pore@oia.hokudai.ac.jp
お問い合わせ先は国際本部です。上記のアドレス宛にメールにてお問い合わせください。
なお、英語すべて英語で行われます。

Associate Prof. Henry Osbahr
School of Agriculture, Policy and Development
University of Reading

<Schedule> (Tentative/仮)

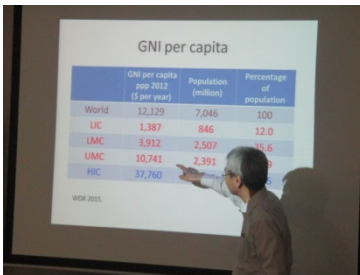
14:30-14:45 : Registration/Opening (登録/オープニング)
14:45-15:45 : "Food Security and Poverty Reduction"
【食料安全保障と貧困削減】
by Associate Prof. Henry Osbahr from School of Agriculture, Policy and Development, University of Reading
By Henry Osbahr 准教授 (レディング大学・農学部)

15:45-16:00 : Q & A
16:00-16:15 : A brief talk on Food and Poverty Reduction (mini lecture) 「ミニレクチャー」
by Prof. Takumi Kondo from Faculty of Agriculture, Hokkaido University
By 遠藤巧 教授 (北海道大学・農学研究科)

16:15-17:00 : Group Discussion (グループ・ディスカッション)
17:00-17:15 : Presentation (プレゼンテーション)

Prof. Takumi Kondo
Faculty of Agriculture
Hokkaido University

This program is funded by the Top Global University Project (MEXT)



北海道大学

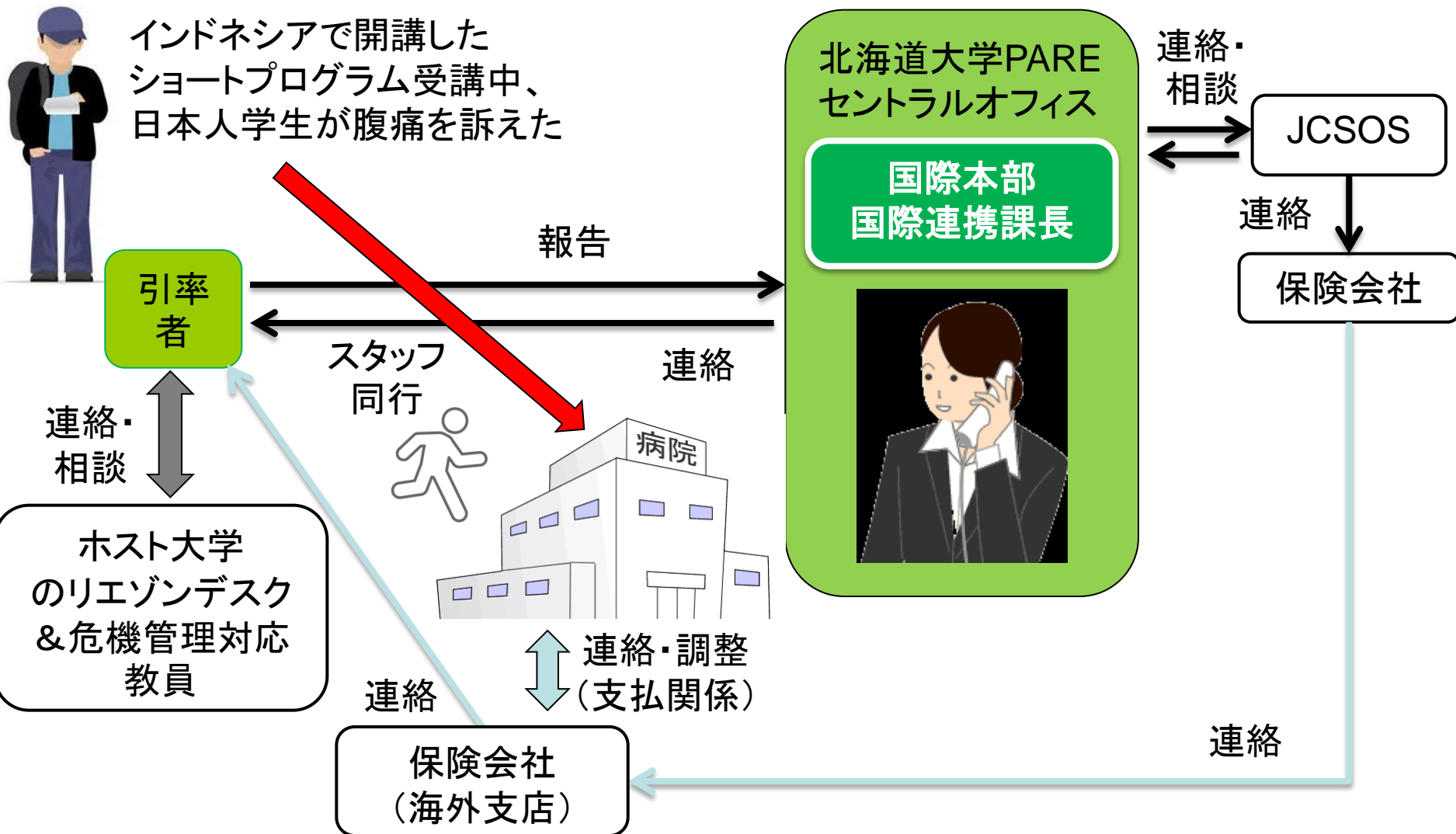
- プログラムの概要
- 危機管理に関する取組

危機管理に関する取組(1): 事故/病気/盗難/紛失時

	実施前	実施中
事故/病気/ 盗難/紛失	<p>【大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 海外旅行傷害保険(派遣・受入共)、国民健康保険(受入)等の加入 ⇒費用は学生負担 ■ 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)の危機管理システムJ-TASの加入(派遣) ⇒費用は大学負担 ■ 危機管理に関する事前説明会の実施、「セーフティ・ガイド」の配布(派遣) <p>【PAREプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内旅行傷害保険(国内フィールドワーク実施時)⇒費用は学生負担 ■ 健康等に関するアンケート(派遣・受入共) ■ 危機管理に関する誓約書(派遣・受入共) 	<p>【大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 健康相談や応急的な診断の実施(北海道大学保健センター) <p>【PAREプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 連絡手段の確保 ⇒公用携帯所持(引率者)、Wifi等インターネット回線の確保(大学、宿泊先)、連絡先の確認 ⇒Emergency Information Sheet の記入、緊急連絡先カード(ショートプログラム) ■ 連絡体制の確立 ⇒緊急連絡網、携帯アプリの活用



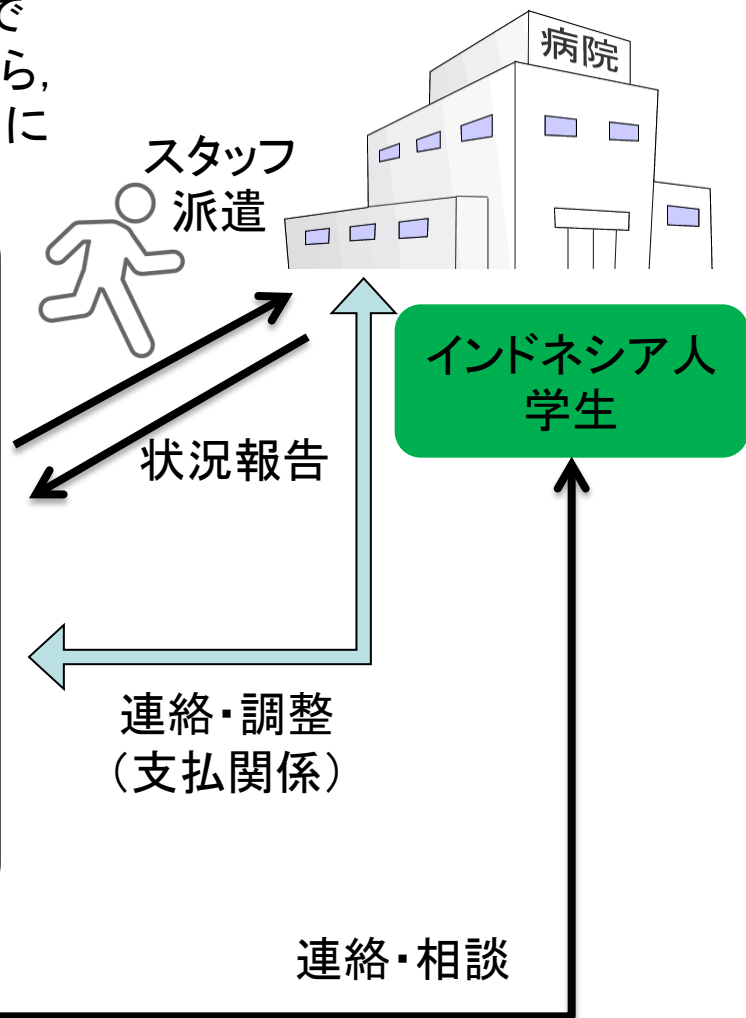
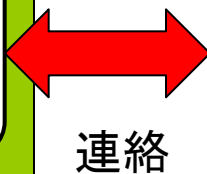
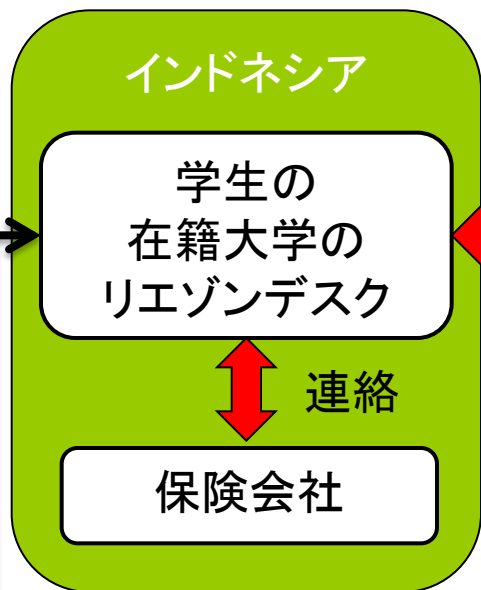
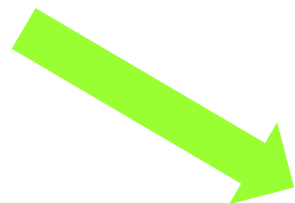
リスク対策に関する事例①: 病気(派遣時)



リスク対策に関する事例②：(病気、受入時)



インドネシア人の学生が宿泊先で倒れ、救急車で搬送中との連絡が、サポーターの日本人学生から、国際本部国際連携課(PAREセントラルオフィス)にあり

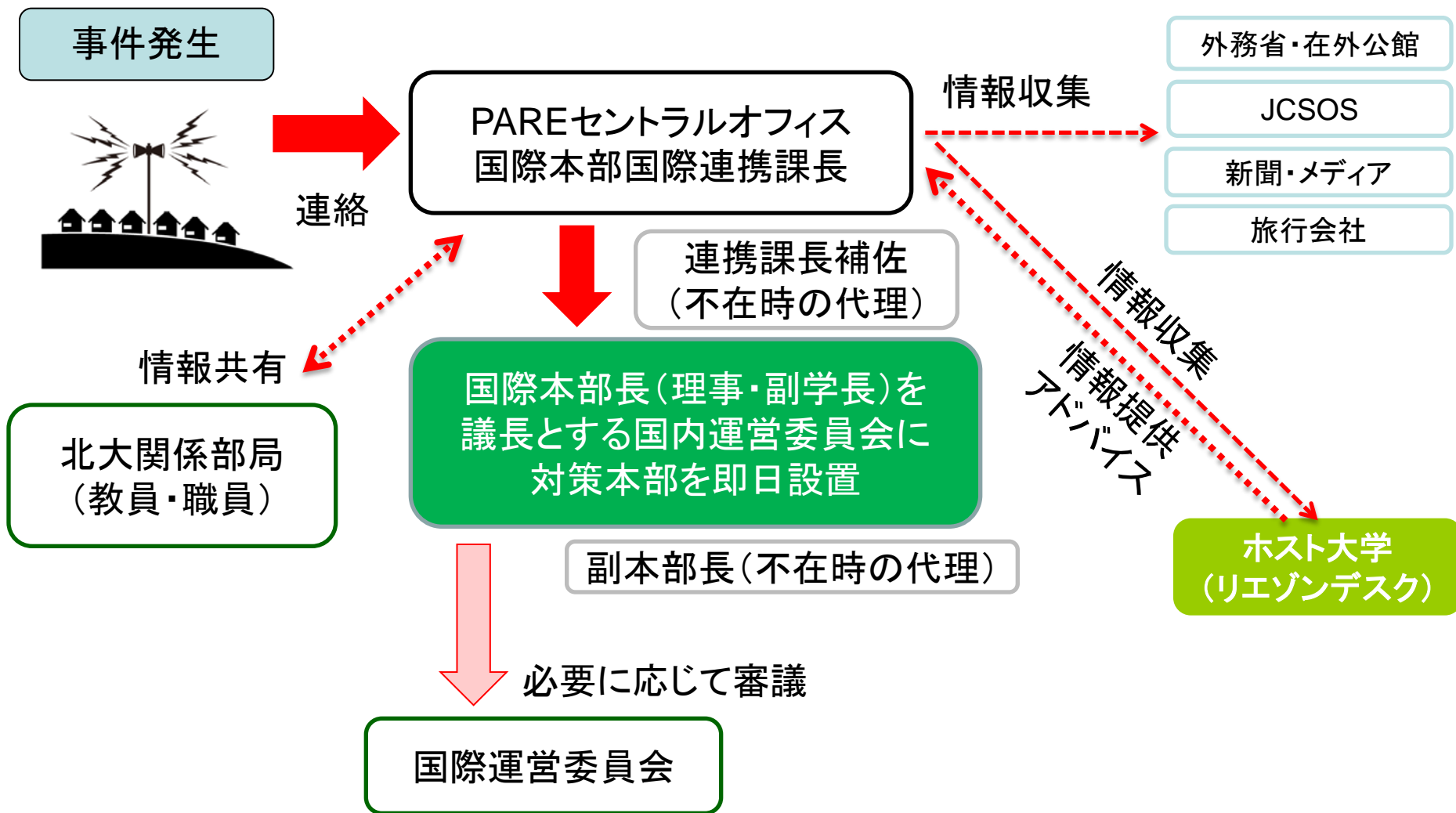


危機管理に関する取組(2): 政情不安/災害時

	実施前	実施中
政情不安/ 災害	<p>【大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 外務省の海外安全ホームページ、JCSOSの危機管理情報、新聞等の確認 ■ 外務省海外旅行登録「たびレジ」への登録 ■ 危機管理に関する事前説明会の実施、「セーフティ・ガイド」の配布(派遣) <p>【PAREプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 危機管理に関する誓約書 ■ <u>国内運営委員会・国際運営委員会による意思決定(実施・延期・中止等の判断)</u> 	<p>【PAREプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 連絡手段の確保 ⇒ 公用携帯所持(引率者)、Wifi等インターネット回線の確保(大学、宿泊先)、連絡先の確認 ⇒ Emergency Information Sheet の記入、緊急連絡先カード(ショートプログラム) ■ 連絡体制の確立 ⇒ 緊急連絡網、携帯アプリの活用



危機管理に関する意思決定および連絡体制 (政情不安/災害時): リスク予防(学生派遣前)



事例：平成26年6月スプリングスクールの開講中止決定

5月20日(火) タイ国軍がタイ全土を対象に「戒厳令」を発令

5月22日(木) タイ国軍による全権掌握宣言(クーデター)

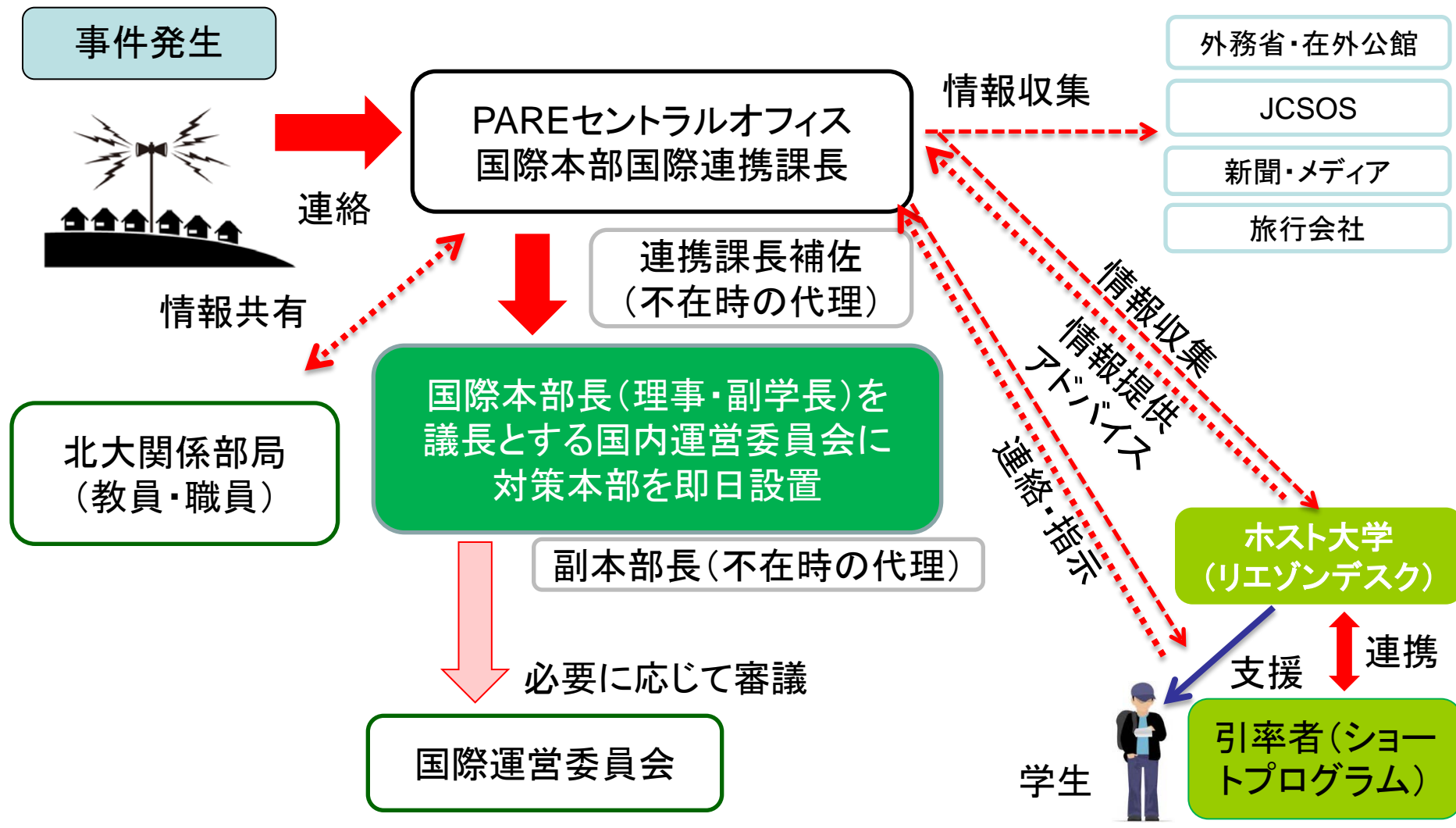
- 対策本部設置
- ホスト大学であるカセサート大学に連絡、情報提供を依頼
- 新聞、インターネット、外務省海外危険情報、JCSOS危機管理情報等より情報収集

5月26日(月) 運営委員会にて、スプリングスクールへの学生派遣中止を決定

5月27日(火) 国際運営委員会にて、スプリングスクール開講中止を決定(メールにて議決)

5月28日(水) 関係部局および学生に、スプリングスクールの中止について、文書で正式通知

危機管理に関する意思決定および連絡体制 (政情不安/災害時): リスク対策 (学生派遣中)



危機管理に関する取組(3): 異文化適応・メンタルヘルス

	実施前	実施中
異文化適応/メンタルヘルス	<p>【大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 文化交流各種イベントの開催(留学生) ■ 学生サポーター、チューター制度(留学生) ■ 留学生サポートデスク(留学生) ■ 危機管理に関する事前説明会の実施、「セーフティ・ガイド」の配布(派遣) 	<p>【大学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 英語での対応可能なカウンセラーの配置(国際本部)
共通事項	<p>【PAREプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>セントラルオフィスとリエゾンデスク間の情報共有・連携</u> ■ <u>ブログへの定期的な投稿の義務付け(派遣・受入共)</u> ■ <u>全員が「ショートプログラム」を事前に受講することにより、留学前に異文化適応能力がつく。また、留学前に留学先に友達ができる。</u> 	



ご清聴ありがとうございました。

